

家族謎解き体験

ただいま タムルズ

最終稿

脚本を公開するにあたり

この度は、家族謎解き体験「ただいまタイムループ」の脚本にご興味を持っていただき、誠にありがとうございます。

2024年11月13日(水)から11月17日(日)「家族の日」にかけて行った家族謎解き体験「ただいまタイムループ」は、
沢山のあたたかい声をいただきながら、大盛況で幕を閉じることができました。

その中で、再演を希望するご意見を多数いただき、
脚本と、本公演のためにつくった制作物を公開させていただくことにしました。

歴史上類を見ない超高齢社会を迎えている日本では、
働きながら家族を介護する方の数が増えています。
仕事と介護の両立困難に起因する経済損失は、
家族介護者の数がピークを迎える2030年に、9兆円を超えるという調査結果もあります。

そこで経済産業省では、「介護を『個人の課題』から『みんなの話題』へ」をテーマに、
2023年3月よりOPEN CARE PROJECTを発足。

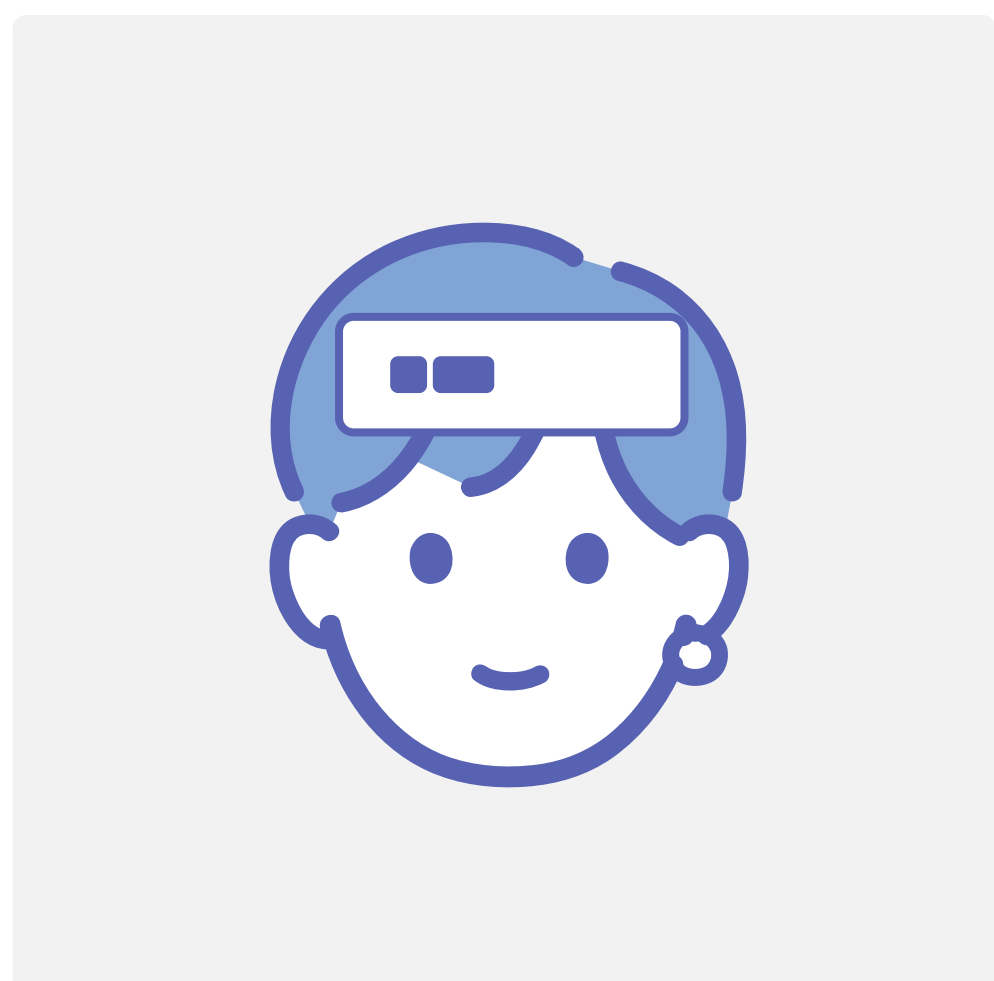
「ただいまタイムループ」は、そのプロジェクトの一環として、企画されました。

「ただいまタイムループ」が私たちの手の届く範囲を超えて、多くの場所で公演されることで、
介護について話すきっかけが生まれることを、願っています。

家族謎解き体験「ただいまタイムループ」

事務局一同

登場人物



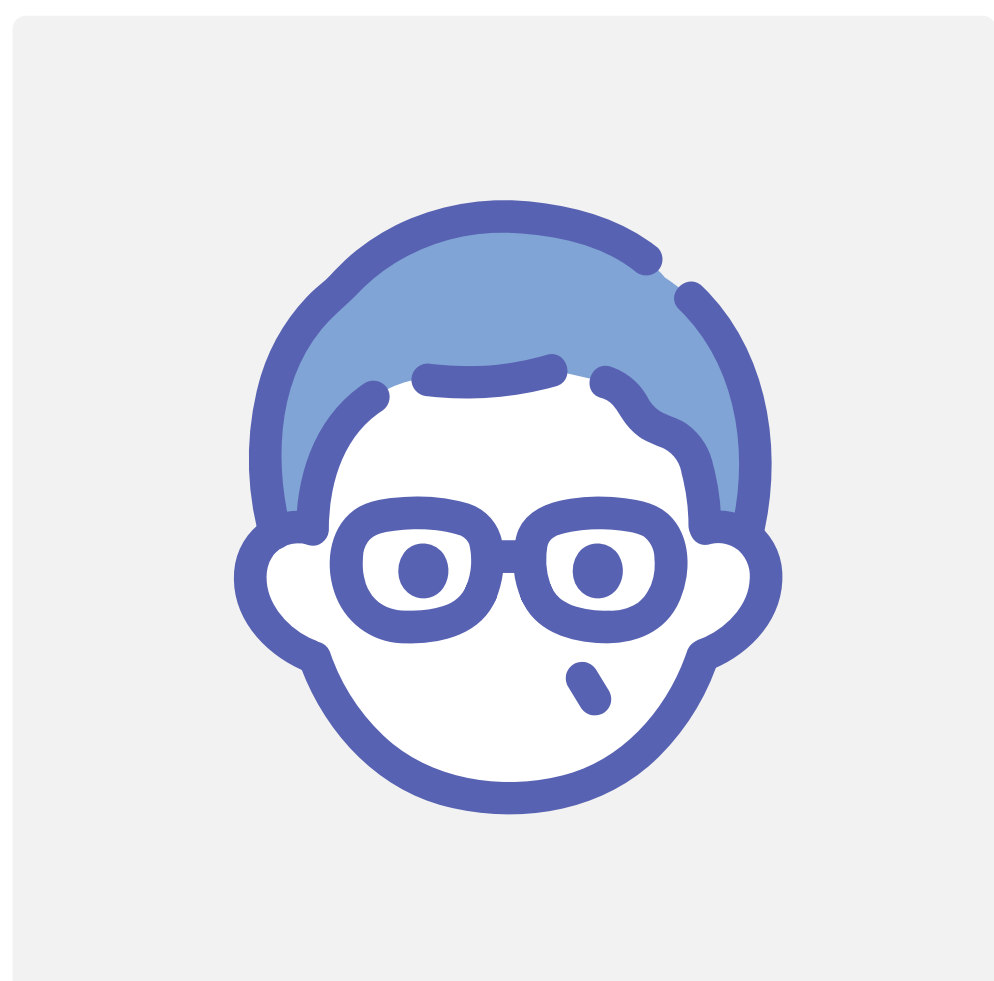
未来人

実家に突然現れた、謎の人物。
未来人を名乗る。



母

今日が誕生日。遠く離れた子どもが
帰ってくるのを心待ちにしていた。



父

すでに定年を迎えている。
仕事一筋だったため、家事がちょっぴり苦手。



長女

「あなた」と同じく、実家から遠く離れた街に
暮らしている。責任感が強く、なんでも背負いこむ。



来場者

実家から遠く離れた街に暮らす。
母の誕生日を祝いに久しぶりに実家に帰る。
※ 1名ないし2名を想定。2名の場合はきょうだいという設定。

会場紹介



子ども部屋

来場者が、ひとり暮らしをはじめるまで住んでいた実家にある子ども部屋。



未来人がやってきた タイムループ空間

子ども部屋のクローゼットが、この日に限り、未来人のためのタイムループ空間に。



台所

調理をするための空間。

母が夕飯の準備をしているシーン等で登場する。



居間

家族が普段いる空間。

家族間での様々な会話が繰り広げられる。



縁側

居間と庭との間にある空間。

父がゴルフ用具の手入れをしている。

脚本

小御門優一郎

1. 来場・受付～プロローグ

	<p>体験者は、会場に来場する。</p> <p>玄関口にて受付を済ませ、スタッフによる説明を受ける。</p>
スタッフ	<p>「ここは、あなたの実家です。今は実家を出て暮らしているあなたは今日、久しぶりに実家に帰ってきたところです。生まれ育った、懐かしい家に帰ってきた。そんな気持ちで、この廊下の奥に向かって『ただいま』と呼びかけてみてください。そしたら、体験が始まります。それでは、行ってらっしゃい」</p> <p>※体験者が2名の場合、きょうだいの設定である旨を伝える。</p>
体験者	<p>「ただいまー」</p> <p>体験者は、セリフを言いながら廊下を進んでいく。</p> <p>すると、奥から母が顔を覗かせる。</p>
母	<p>「あーおかえり！久しぶり。ありがとねわざわざ。お姉ちゃんも帰ってきてるから、荷物置いたら、居間おいでね」</p> <p>母は体験者を子ども部屋に誘い、扉を閉める。</p>

2. オリエンテーション・子ども部屋

	<p>体験者は、子ども部屋に案内された後、特に説明も受けずに待機している状態。</p> <p>しばらくすると、閉じられたクローゼットの隙間から光と音が漏れ始める。</p> <p>SE：キューーーーーン（クローゼットから時空をワープしてくるような音）</p> <p>音が止む。クローゼットの中から、声が聞こえてくる。</p>
未来人（声）	<p>「時間航行、正常に完了。20XX 年、XX月XX日（その時の時刻）に到着。了解、状況を開始します」</p> <p>クローゼットの扉が開き、中から未来人が姿を現す。</p> <p>※未来人は開演時からクローゼット内に潜んでいる必要あり。</p> <p>※クローゼットの中は、黒布で覆うなどして、異空間化していることを表現したい。</p>
	<div></div> <div></div>
	<p>未来人、体験者たちと目が合う。</p>
未来人	<p>「あ……！」</p> <p>未来人、クローゼットの中から慌てて出てきて、</p>
未来人	<p>「しーっ！落ち着いてください！大きい声とか、出さないで！えーと、私は、決して怪しい者ではございません！」</p>

	<p>焦った未来人は、机の上に乗っていた造花のオブジェを倒し、破損させてしまう。</p> <p>※この造花オブジェは、花の部分が仮接着の状態になっていて、倒すだけで簡単に花の部分が取れて、未来人が壊したように見えるようになっている。花のオブジェでなくても、このように「未来人が物を破損させた」ということを体験者に見せることができればよい。</p> <p>（上画像参照）</p>
未来人	<p>「あっ……！ごめんなさい！！なんてことを、変えなくてもいい歴史を変えてしまった……！こんなことやってる時間はない……！」</p> <p>未来人、意を決して体験者たちに向き直り、</p>
未来人	<p>「いいですか、落ち着いて聞いてください。私は……！未来人です」</p> <p>体験者のリアクションに合わせて、未来人はアドリブで応える。</p> <p>そのやりとりがひと段落したら、</p>
未来人	<p>「私は、あなたたち家族に将来訪れるであろう、ある出来事を、回避させるために未来からやってきました」</p> <p>※台本上は「あなた」と記載するが、本番ではできたら体験者の名前と呼ぶ。</p>
未来人	<p>「今日は、あなたのお母さんのお誕生日で、いつもは仕事で忙しいお姉さんも帰って来て、久しぶりに家族全員が揃う日。そうですね？」</p>
未来人	<p>「実は今日という日が、あなたたちご家族にとって、重要な分岐点なんです。突飛な話と思われるかもしれませんが、私の話、信じてもらえないでしょうか……？」</p> <p>体験者が了承してくれるまで、アドリブでやりとりを続ける。</p>
未来人	<p>「ありがとうございます！未来を変えるためには、あなたの協力が必要不可欠なんです。おっと、詳しい説明をする前に、そろそろ居間に行ってもらわないといけません。タイムラインの変更は最小限にしないと……！」</p>
未来人	<p>「居間に行ったら、いつも通りの感じで、家族の皆さんと会話してきてください。あくまでもいつも通りに。私に会ったことは言ったらいけませんよ。すぐに夕食まで解散ということになるはずです。そしたら、またこの部屋に戻ってきてください！規定により、私はあなた以外の家族に接触することはできないんです。すみません歴史の修正にはいろいろルールがあって……！それじゃあ、お願いします……！」</p> <p>体験者は子ども部屋を出て、居間へと進んでいく。</p>

3. 会話パート・居間

	<p>体験者は、居間に入っていく。</p> <p>居間では、姉がパソコンで仕事、父が庭を眺めている。</p>
父	<p>「おお、おかえりー」</p>
姉	<p>「久しぶりー」</p> <p>後から、母がお盆に人数分のお茶を入れて入ってくる。</p>
母	<p>「はいはい、お茶でもどうぞ。あんたも座んなさい」</p> <p>家族はそれぞれこたつテーブルに座る。</p>

父 「いやぁでも、全員揃うのも久しぶりだなぁ」

姉 「そっか、私が正月帰れなかったから。あんたは帰ったんだっけ？」

体験者 「（回答）」

姉 「そっか」

母 「今日はありがとね忙しいところ」

姉 「ううん、むしろごめんね最近ちゃんとお祝いできてなくて。誕生日おめでとう」

母 「ありがとう。二人はどうするの今日は？泊まっていく？」

姉 「私は帰る。明日仕事で朝早いから」

母 「そう、明日早い人がいるなら、ご飯早めにしますかね」

父 「俺も明日、ゴルフで朝早いしな」

母 「え、そうなの？」

父 「え？言ったじゃん」

母 「いつ？」

父 「今朝」

母 「そうだったっけ？じゃ、準備始めちゃうわ」

姉 「ていうか作るの？誕生日なんだしピザとか寿司とか、出前でいいんじゃない？」

母 「いいのいいの作る。あんたたち普段ちゃんとしたもの食べてるか心配だし」

姉 「私だって自炊くらいしてるよ」

母 「本当に～？」

姉 「お母さん、私たちももういい歳した大人だよ？それなりにちゃんと暮らしてるから、心配いらないって。ねえ？あんただってそうよね（体験者に）？」

体験者 「（返答）」

体験者の返答に対して、少しアドリブのやりとりあって、

母 「そう、お節介失礼しました。じゃ、ご飯できたら呼ぶから、それまでごゆっくり」

姉 「私仕事するー」

父 「俺も明日の準備するかな」

家族は、それぞれの場所へと散っていく。
体験者は、子ども部屋へと戻っていく。

子ども部屋に戻ると、物陰に隠れていた未来人が顔を出す。

未来人 「よかった……。あなたでしたね。どうでしたか？いつも通り話せましたか？」

体験者とのやりとりあって、

未来人 「よかったです。本当、素敵なお家族ですね……。ではこれから、一体どんな未来を回避しようとしているか、伝えられるところまで説明させていただきますね。少し、驚く内容かもしれませんが、落ち着いて聞いてください……！」

未来人はタブレット端末を使いながら説明を始める。

未来人 「お母さんは、今からそう遠くない未来、認知症を発症されます。初めて診察を受けた時には、かなり症状は進んでいました。ご自身でフォローされていたんですね……。しばらくして、お母さんの介護が始まるのですが、そこで問題になるのが『お金』にまつわることです」

未来人 「お母さんが所有されていた預貯金、これを引き出すのに相当苦勞することになるんです。お母さんが『口座の暗証番号』と『印鑑と通帳の保管場所』を思い出せなくなってしまっ
て……。たとえご家族でも、代理で引き出すことは難しいんです……」

未来人 「見かねたお姉さんが仕事を辞め、介護に専念できるようにしてくれましたが、介護の方針や、金銭がらみのことでの家族間のすれ違いが多くなり、あなたの家族は以前の仲の良さが嘘のように、どんどんギクシャクした関係になっていってしまうんです……」

未来人 「こんなの悲しすぎます！今はあんなに、仲のいい素敵な家族なのに……。！必要な『情報』さえ、事前に揃っていれば、あんな風にはならなかったはず。つまり、『口座の暗証番号』と、『印鑑と通帳の隠し場所』さえわかれば、未来は変わるはずなんです！これを」

未来人はミッションカードを体験者に渡す。

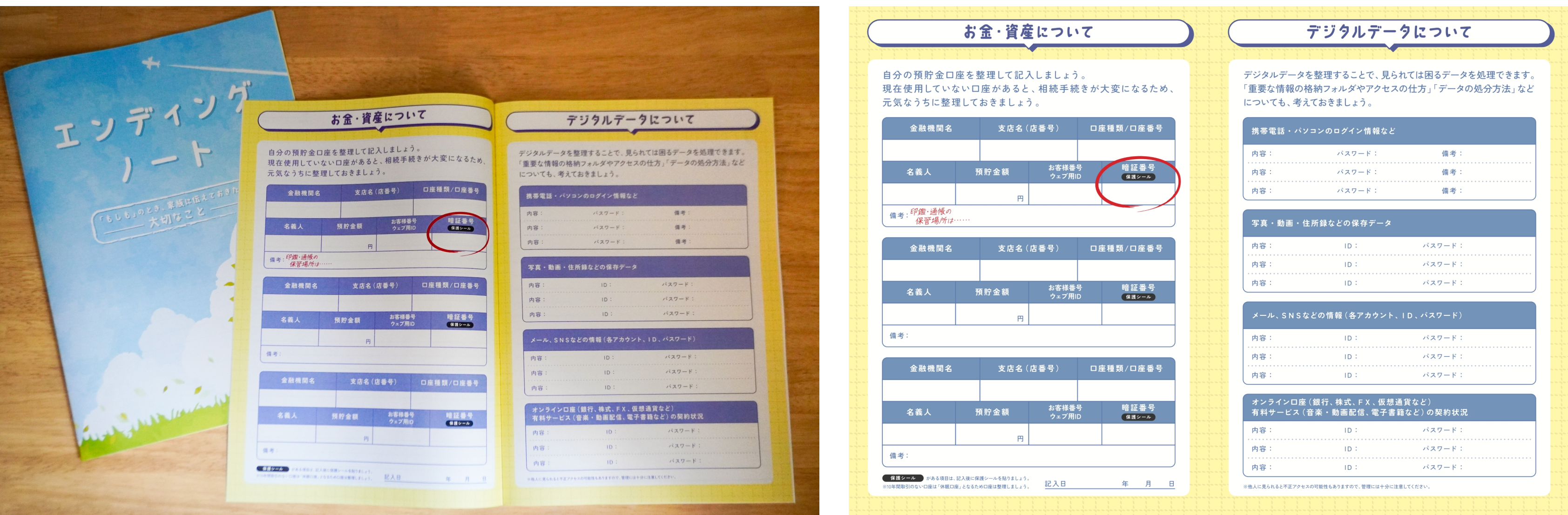


未来人 「ミッションカードです。この2つの情報を入手してきてほしいのですが、お母さんに、こんな重要なこと、突然に聞くのも難しいですね。そこで、これをお渡しします」

未来人は、エンディングノートを体験者に手渡す。

未来人 「それは、『エンディングノート』です。この時代に存在しているものですから、タイムパラドックスの心配はありません。ご存じですか？エンディングノートというのは、人生の締めくくりの方針や必要な情報を事前に記しておくノートらしいんですけど、ほら」

未来人は、とあるページを開いて示す。



未来人 「この付箋をつけたページに、『口座の暗証番号』と『印鑑と通帳の保管場所』を書く欄に印をつけておきました。今からこのエンディングノートを、台所にいるお母さんに渡して、このページを書いてもらってください！ここだけ書いてもらえば大丈夫です！」

未来人 「もし渋られても、『いつ病気になったりするかわからないから将来のために、用意しておくべきだよ』と押し切ってしましましょう！」

未来人 「記入してもらえたら、またこの部屋に戻って来てください。大丈夫そうですか？」

体験者が次にやることを理解しているかのやりとり。

未来人 「ありがとうございます。もし、うまくいかなかったり、やることに困ったりしたら、ここに
戻って来てくださいね」

体験者は、子ども部屋を出て、台所へと向かう。

5. 行動パート①・台所

台所では、母が夕飯の準備をしている。鼻歌交じり。
体験者が台所に入ると、母が振り返る。

母 「どうしたの？もうお腹空いた？さすがにもうちょっとかかるよ」

体験者は、エンディングノートを見せる。

母 「ん？『エンディングノート』……？なあにこれ？」

体験者は、エンディングノートがどういうものを説明し、記入してほしいと伝える。

母 「遺言書みたいなもの？別にいいんじゃない？今じゃなくても。お母さんまだ元気だし」

母は一旦渋ってくるので、未来人から指示された通り、「いつ病気になったりするかわからないから、準備をしておくべきだ」と食い下がる。

母 「なんだか、年寄り扱いされるみたいで気分良くないけど、まあたしかに、備えはしておいた方がいいのかね……」

母は、渋々エンディングノートへの記入を了承する。

母 「どこを書けばいいの？」

体験者は、記入してほしいページと、記入箇所を母に伝える。

母 「暗証番号、実印と通帳の保管場所.....？書きちゃったら危なくない？お母さんせっかく泥棒に見つからないようにちゃんと隠してるのに.....。それじゃあそうね、そのまま書くんじゃないくて、家族ならわかるような書き方にしようかな。家族に伝わればいいんだもんね？」

母は、「秘密の質問」として「暗証番号」と「印鑑、通帳の隠し場所」を記入する。
「暗証番号」→「一番思い出深い土地」
「印鑑、通帳の隠し場所」→「家で一番安心できる場所、の下」。

母 「はい書けた。まあ、家族なら誰かしらわかるでしょ。ああ、やっぱりこういうの書いてるとしみじみしちゃって嫌だわ。せっかく今日は私のめでたい日なのに。はい、じゃあお母さん、準備の途中だから」

体験者は、エンディングノートを返される。
エンディングノートを返してもらったら、体験者は再び子ども部屋へ戻る。
※体験者がそのまま居間にいる父に質問の答えを聞きに行ったら、シーン6はスキップする。
その場合シーン8に、スキップされたシーン6の会話内容をマージする。

6. ブリーフィング②・子ども部屋

子ども部屋に戻ると、未来人が待っている。

未来人 「どうですか？暗証番号と保管場所、書いてもらえましたか？」

体験者は、エンディングノートを未来人に渡す。

未来人 「なるほど.....。直接は書かなかったんですね。用心深いな.....。いや、いいことですけど。お母さんにとって『一番思い出深い土地』、『家で一番安心できる場所、の下』。この『秘密の質問』の答え、心当たりはありませんか？」

体験者は、この段階では二つともわからないので、わからない旨を未来人に伝える。

未来人 「そうですか.....。それじゃあ、お父さんに聞いてみましょう！長年連れ添ったお父さんなら、わかるかもしれません！」

未来人 「次は、お父さんに話しかけてみてください。先ほどの『秘密の質問』の答えに心当たりがあるかどうか.....。お父さんには、お母さんの未来のことは伏せ、この質問についてだけ、聞いてみましょう。お父さんは縁側でゴルフ用具の手入れをしているみたいです」

体験者は、子ども部屋を出て、縁側に向かう。

縁側に行くと、父がゴルフ用具の手入れをしたり、素振りをしている。
体験者が近づくと、父が話しかけてくる。

父 「どうした？ゴルフやるか？始めるなら教えてあげるぞ」

体験者 「（返答）」

父は、明日ゴルフに行けるのが嬉しく上機嫌で、次から次へと他愛のない話題を振ってくるので、体験者は「そんなことよりさ」と、話題を変えなくてはならない。

父 「どうした？」

母にとって『一番思い出深い土地』と、『家で一番安心できる場所（の下）』に心当たりがないかを父に尋ねる。

父 「なんだそりゃ。なんか今日、サプライズでもするの？」

体験者 「（返答）」

父 「そうだなあ、『一番の思い出深い場所』なら、広島じゃないか。家族旅行で行ったろ。厳島神社行って、平和記念公園行ってさ。覚えてるか？」

体験者 「（返答）」

父 「それとな、もう一個広島なんじゃないかと思う理由は、結婚する前もな、二人で旅行してるんだよ。楽しかったなあ。その頃は、まだ職場のみんなには付き合ってること隠してたから、秘密の旅行だった訳。ドキドキしたよ。東京駅で落ち合った後も、新幹線隣同士には乗らなかつたりね。前日に、ポケベルで『10940』って送ったなあ。あ、知らないか、ポケベル暗号。ポケベルって最初は数字しか送れなくてさ、数字の語呂合わせでメッセージを送ってたんだよ。『10940』で『とうきょう』ね。東京駅で待ち合わせってこと。お父さんはいちいち調べないと無理だったけど、お母さんは暗記しててすごかったなあ」

父 「だから、お母さんにとって思い出深い土地っていったら広島じゃないかな？知らなかったろ？お父さんとお母さんがそんな燃えるような、忍ぶ恋をしていたなんてさ」

ここから、暗証番号は「広島」の数字語呂合わせなのではないかとわかる。

父 「（時間を確認して）あ、やばい過ぎちゃった……！ちょっとお父さん、もの受け取りに出てくるから。すぐ帰ってくる。あ、お母さんには内緒な」

そう言うと、父は縁側から去っていく。

体験者は、父との会話を切り上げた後、子ども部屋に戻る。

※この時、姉も居間にはいるが、パソコンでリモート打ち合わせをしているなどして、体験者が話しかけられないようにする。体験者が話しかけようとしても、断る。姉が対応可能になるのは、シーン8が終わった後。

子ども部屋では未来人が待っている。

未来人 「どうでした？『秘密の質問』の答え、わかりました？」

体験者は、父とやりとりをして、「一番思い出深い土地」は「広島」なのではないかということがわかった旨を伝える。

未来人 「『広島』、ですか。出身地とかじゃないですよ？なんでまた？」

体験者は、広島が家族旅行と、父と母が結婚前の旅行で訪れた土地だと答える。

未来人 「なるほど！結婚前にも二人で訪れていたなんて、私のリサーチから漏れていました。『一番思い出深い土地』って、暗証番号の方の答えですよ？数字になりますかね？うーん、他に何か、ヒントになりそうなことは言ってなかったですか？」

体験者は、やりとりの中で「ポケベル」というワードを出す。

未来人 「『ポケベル』……？あー！100年以上前の、一番最初のポータブル通信端末ですね！この前博物館で見ましたよ！そっか、最初は数字しか送れなかったんだ。ていうことは、広島の数字語呂合わせがわかれば、番号もわかる？よし、じゃあ検索……！」

未来人は、タブレット端末を使おうとするが、オフラインである。

未来人 「そうだった……！私、こっちじゃネット検索できないんです……。調べてみることでできますか？」

体験者が「広島」の語呂合わせを知らない場合、未来人は体験者自身のスマホで、検索を試みるように促す。

「広島 数字 語呂合わせ」でブラウザ検索をすると、「広島の数字語呂合わせは1640」であることが記載されたページがヒットするので、未来人はうまくこの検索ワードになるように体験者を誘導する。

未来人 「ありました？『1640』？これで「ひろしま」……？なるほど、『ひ、ふ、み』の『ひ』と、『まる』の『ま』ってことか！うーん、この時代の語呂合わせのセンス、発達しすぎですね。でも、1640、これに違いありません！これで、『口座の暗証番号』はクリアですね！」

未来人 「次は、『印鑑と通帳の隠し場所』です。今度はお姉さんに聞いてみましょうか。お姉さんに、お母さんにとっての『家で一番安心できる場所』を聞いてみてください。お姉さんには、このエンディングノートを見せながら、それが『印鑑と通帳の保管場所』を表していることを伝えながら聞いても大丈夫です」

未来人 「もし隠し場所の答えがわかったら、お姉さんにはこちらのページも見せて、『口座の暗証番号』も伝えてください。多少強引でも、お姉さんに認識してもらうのが重要です。先ほどもお話しした通り、お姉さんは、介護が始まると、仕事も辞めてお母さんのケアのリーダー的役割を果たしてくれます。そんなお姉さんに、今日あなたが得た情報を早めに共有しておけば、初動が早くなって、もっといい選択肢を選べるルートになるはずです」

未来人 「お姉さんは、居間でお仕事をしているみたいですね。情報を伝える時、もし『なんで急にそんなことを言い出すの』と怪しまれたら、『子供が事前に親の介護準備をしておくことは大事なこと』だからと答えましょう！お姉さんなら、きっとすぐ理解してくれるはずです」

未来人 「複雑になってきましたが、次にやることは大丈夫ですか？」

体験者が次にやることを理解しているかを確認するやりとりがあって、
※未来人は、必要に応じて次の行動パートで体験者が言うべきセリフを復唱させるなどしてもよい。

未来人 「より良い未来に変わるまで、あとちょっとです！頑張って来てください！」

体験者は、居間に向かう。

9. 行動パート③・居間

居間では、姉がパソコンで仕事をしている。
さきほどまでしていたリモート打ち合わせは終わったようである。
姉は、体験者が居間に入って来ても話しかけてはこないの、体験者から声をかける。

姉 「なに？」

体験者は「実印・通帳の隠し場所」に関する秘密の質問、「家で一番安心できる場所、の下」の答えに心当たりがないか姉に尋ねる。

母 「お母さんの『家で一番安心できる場所』？なにそれ」

体験者は、それが『印鑑と通帳の保管場所』であることを明かす。

姉 「『印鑑と通帳の保管場所』？なんでこんなこと調べてるの？まあ、お母さんが安心できる場所はわかんないけど、お母さんが大切なものを隠す場所なら、もしかしたら『米びつ』かもね。あの、米入れる容器ね。お母さんが大事なものをそこに隠しているの、見たことある気がする。台所のシンクの下のさ」

ここまでのやりとりで、「印鑑と通帳の保管場所」は、台所のシンクの下、米びつの中なのではないかとわかる。
次に体験者は、母の口座の暗証番号についても、姉に伝える。

姉 「ちょっとまってちょっとまって。何急に。なんで私にそんなこと教えてくるわけ？」

体験者は、「今後、介護が必要になった時、情報を子供達で知っておいた方がいい」という旨を答える。
すると、姉の様子が変わる。

姉 「フーッ（ため息）。なに？私に面倒見ろってこと？」

体験者がリアクションをしたとしても、姉は頑なに続ける。

姉 「はいはい、いいですよ私がやりますよ。長女だし。あんたより実家にも近いしね。こういうのは、なんだかんだ『長女が』ってことになるのよね」

姉 「まあそれに、さすがにすぐじゃないだろうし。今倒れられたりしたら、正直たまんないよ……。仕事だって、ようやくまとまりそうなものがあんのにさ。それにしても、あんたも調子いいよね。こういう時だけお姉ちゃん、ってさ」

姉の携帯電話に着信。

姉

「もしもし。お世話になってます。本当ですか！？はい、ありがとうございます。はい、（ちらと体験者を見て）パートナーとも相談しますが、前向きに検討させてください！はい、はい……」

姉は電話で話を続ける。体験者に手で離れるように指示するので、体験者は子ども部屋に戻る。
※もしここで体験者が台所の米びつを直接確認しにいった場合は、そのままシーン１０をスキップして進行する。

10. ブリーフィング④・子ども部屋

子ども部屋に入ると、未来人が出迎える。

未来人

「どうですか？お姉さんには情報共有できました？」

体験者は、姉に情報を伝えることができた旨を答える。

未来人

「よかった！『実印と通帳の隠し場所』の方は、どうでしょう？」

体験者は、「米びつの中」なのではないかという旨を答える。

未来人

「米びつ……？それってどこにあるんですか？」

体験者は、台所のシンクの下であることを答える。

未来人

「なるほど……。つまり、台所がお母さんにとって一番安心できる場所、ってことでしょうか……。では最後に、実際にそこに印鑑と通帳が隠してあるのか、確認してきてください！それを観測すれば、必要な情報が20XX年時点で揃っていたということが確定し、未来は良い方向に変わるはずです！（時計をみながら）よかった。なんとか私の滞在時間内に間に合いそうです！それじゃあ、よろしくお願いします」

体験者は、子ども部屋から台所へ移動する。

台所に行くと、ちょうど誰もいない。
※母役は、行動パート③の間に待機場所にはけておく。

体験者は、流しの下棚から米びつを発見し、中を探る。
すると、中からチャック付きビニール袋が出てくる。
しかし、袋の中に実印と通帳は入っておらず、代わりに
「泥棒の方へ。この家には盗るようなものはございません。お引き取りください」
という母が筆で書いたであろう紙が出てくる。



体験者がその紙を発見したタイミングで、母が台所に入ってくる。

母 「あれ？どうしたの、何してるの……？」

母 「判子と通帳、探してたの……？なんで？え？どういうこと……？」

台所でのざわつきに気づいて、父（ケーキの箱が入った紙袋を持っている）と姉が台所にやってくる。

父 「どうした？」

母 「この子が、実印と通帳、持っていこうとしてて……！」

父 「え……。本当か？なんでそんな……」

母 「でもそこは嘘の隠し場所だから……！あれ、本当はどこに仕舞ったんだっけ……？」

姉 「お父さん、お母さん、落ち着いて。あんた、ホントに今日なに？何がしたいの？」

体験者は、「介護の準備のため」だと答える。
答えられなかった場合、姉が「さっき言ってた、介護の準備のためってやつ？」とフォローする。

父 「介護？何言ってんだよ、お父さんもお母さんもまだ元気だろ？そんな子供が、こそこそ親の懐事情を探るようなことをするな。それに、お父さんもお母さんも、子供たちに迷惑かける気はない」

姉 「ほんと？」

父 「え……」

姉 「口ではそんなこと言ってもさ、結局私がやることになるんじゃないの？」

父 「そんなこと……」

姉 「いつもそのパターンじゃん。お父さんは口だけ、家のことだって全然できないし。はぁ、いつも私ばかり我慢させられて……。私にだって都合あるのよ。仕事だってやっと（うまくいきそうなのに）……！もう、邪魔しないでよね……」

父 「邪魔って……。そんな言い方ないだろ家族に向かって」

姉 「だって……！」

母 「ごめんね」

その母の一言で、父と姉の言い争いは中断される。

母 「お母さんが勝手に焦っちゃっただけだから。（体験者）も、将来のこと、色々考えてくれたんでしょ？そうだよ、老後のこととかお金のこととか、ちゃんと考えなきゃね。お母さんが悪かった」

沈黙。

母 「ふう、疲れちゃった。ちょっと休むね」

母は台所から出ていく。
父は心配そうに母を追いかけていく。

姉 「お母さんの誕生日に、こんな空気にしなくてもさ」

姉も台所から去っていく。
台所に残り残される体験者。
他にいく場所もないので、子ども部屋に戻っていく。
※もし体験者が次に行くべき場所を完全に見失ってしまっていたら、未来人がひっそりと子ども部屋から出てきて、体験者を手招きして子ども部屋へと連れていく。

12. ブリーフィング⑤・子ども部屋

子ども部屋に入り、扉を閉めるとしばらく黙る未来人。
そして、体験者の方を振り返り、深く頭を下げる。

未来人 「すみませんでした！！」

未来人 「私、お母さんの誕生日を、台無しにしてしまいました……。それに、未来は変わっていないんです……。！」

未来人 「必要なのは、『情報』じゃなかったみたいです。私、家族の未来を変えようってことばかり考えて、家族のみなさん、なによりお母さんご本人の気持ちを考えられていませんでした」

未来人 「そりゃ、嫌ですよ。ひさしぶりに帰って来た子供に、いきなりお金のこととか、介護の話ことを一方的に、尋問みたいに聞かれたら。未来を知っていることにかまけて、そこを考えられていませんでした。本当にごめんなさい」

沈黙（できたら体験者から言葉をかけてあげてほしい）。
未来人は決意を決めて、顔を上げる。

未来人 「お願いがあります！私と一緒に、今日の、私とあなたが出会った時間まで、一緒に戻ってくれないませんか？」

未来人 「このクローゼットの中に、時間遡行フィールドを発生させています。ここに入ってもらえば、過去に戻れるんです」

未来人 「今日という日を、やりなおしたい。本当は、やり直すことなんてできないけど、このままじゃ終われない。もう一度、私のことを信じてくれませんか？」

体験者は、未来人と一緒に過去に戻ることを了承する。

未来人 「ありがとうございます……！それじゃあ、こっちへ！この周回で使ったものは、置いて行ってしまいましょう！」

未来人はクローゼットの中へと体験者を誘う。
体験者が持っているエンディングノート、ミッションカードは机の上に置いていく。
体験者、未来人と一緒にクローゼットの中に入る。

未来人 「念のため、目を閉じていてください。行きます！」

体験者は言われた通りに目を閉じる。
クローゼット内に強い光が発生し、SEも鳴る。

SE：キューーーーーン（冒頭シーンと同じ、時空をワープする音）

未来人 「目を開けても大丈夫です。無事、着きました」

体験者は目を開ける。
未来人はクローゼットを開けて、体験者と一緒に外に出る。
※体験者がクローゼットに入っているうちに、スタッフが机の上のエンディングノートとミッションカードを回収し、破損した花のオブジェを、破損していないものと差し替える。それによって、「花が破損してしまう前の時間まで戻った」ということを、体験者に体感してもらう。

未来人 「私とあなたが会った時間まで戻りました」

扉をノックする音がする。急いで身を隠す未来人。

母（声） 「（体験者の名前）～？」

扉を開ける母。

母 「ああ、帰ってたんだ。おかえり」

体験者 「ただいま」

母 「お姉ちゃんももう帰ってきてるから、落ち着いたら居間おいでね」

母は扉を閉めて出ていく。隠れていた未来人が出てくる。

未来人 「危なかった……！（時計確認し）本当にもう滞在時間が……！手短に説明しますね。これを」

未来人は、手書で書き直されたミッションカードを手渡す。



未来人	「書き直したんです。さっきはきっと、『情報を聞き出す』、という感じが出てしまったのがよくなかったんだと思います。私のミスです.....」
未来人	「大事なのは、『お母さんが心配だから』という、自分の気持ちを交えてコミュニケーションを取るのだと思うんです！『そうすべきだから』というより、『そうしてほしいから』という、感情をまずは伝えるべきでした。そもそも、家族がコミュニケーションを取ることが、ミッションなはずないですもんね」
未来人	「またさっきと同じように居間に行ってください。さきほどと同じ会話が繰り返されるはずで す。どこかで流れを変えたいのですが.....、団欒中に、いきなりお母さんに想いをぶつけるのも 難しいと思います。なので、どこか話を振られたタイミングで、『あなたが最近、不安に思 っていること』について話してみてください。なんでもいいんです。些細なことでも構いませ ん。あなたから先に話を始めることで、お母さんも悩みや不安を打ち明けやすくなると思うん です」
未来人	「その後、お母さんに『最近どう？何か困っていることはない？』と、聞いてみてください。 それで、体調や将来の不安について話してくれたら、『お母さんが心配だから、介護について 一緒に考えよう』と伝えながら、お母さんにこのエンディングノートを、改めて渡してくださ い。この伝え方なら、きっとさっきとは違う展開になるはずです.....！」
未来人	「難しいお願いをしてごめんなさい。でも、気持ちがあればきっと伝わりますし、お父さん、 お姉さんだってフォローしてくれるはずです。家族ですから。大丈夫ですか？」
	体験者、覚悟を決めた返答を返す。
未来人	「ありがとうございます。未来をあなたに託します。それじゃあ、いってらっしゃい」
	未来人に送り出された体験者は、居間に向かっていく。

13. 会話パート（2週目）・居間

	体験者は、居間に入っていく。 居間では、さきほどと同じように姉がパソコンで仕事、父が庭を眺めている。
父	「おお、おかえりー」
姉	「久しぶりー」
	後から、母がお盆に人数分のお茶を入れて入ってくる。
母	「はいはい、お茶でもどうぞ。あんたも座んなさい」
	家族はそれぞれこたつテーブルに座る。
父	「いやぁでも、全員揃うのも久しぶりだなぁ」
姉	「そっか、私が正月帰れなかったから。あんたは帰ったんだっけ？」
体験者	「（回答）」
姉	「そっか」
母	「今日はありがとね忙しいところ」

姉 「ううん、むしろごめんね最近ちゃんとお祝いできてなくて。誕生日おめでとう」

母 「ありがとう。二人はどうするの今日は？泊まっていく？」

姉 「私は帰る。明日仕事で朝早いから」

母 「そう、明日早い人がいるなら、ご飯早めにしますかね」

父 「俺も明日、ゴルフで朝早いしな」

母 「え、そうなの？」

父 「え？言ったじゃん」

母 「いつ？」

父 「今朝」

母 「そうだった？じゃ、準備始めちゃうわ」

姉 「ていうか作るの？誕生日なんだしピザとか寿司とか、出前でいいんじゃない？」

母 「いいのいいの作る。あんたたち普段ちゃんとしたもの食べてるか心配だし」

姉 「私だって自炊くらいしてるよ」

母 「本当に～？」

姉 「お母さん、私たちももういい歳した大人だよ？それなりにちゃんと暮らしてるから、心配いらないって。ねえ？あんただってそうよね（体験者に）？」

体験者 「（返答）」

↑
このやりとりになるまでに、
体験者は話の流れを切るか、姉から質問を振られたタイミングで「最近さ、」等と切り出して、自分の近況話、「最近不安に思っていること」について話をする。
母、父、姉は親身にその話に耳を傾ける。

父 「そうだったのか。最近どうしてるかなんて、そういえば久しぶりに聞いたな」

自分の近況を話終えたら、次のセリフに移行する。

体験者 「お母さんは最近どう？何か、困ってることとかない？」

母 「私？そうねえ。元気といえば元気だし、元気じゃないと言えば元気じゃないかも」

姉 「どっちよ」

母 「そりゃもうそれなりの歳だからね。でも実は最近、物忘れが多くなってきたかな、なんて。しっかりしなきゃとは思ってるんだけど」

父 「え、そうなの？」

母 「ほんと、ちょっとね」

父 「誰かに指摘されたりしたのか？あぁでも、たしかに、前と比べるとそうかもなぁ……！」

母 「ちょっと大袈裟にしないでよ。単純に歳のせいかもしれないし。やめましょ、みんな集まった日にこんな話」

ここで体験者は、「お母さんのことが心配だから、介護のことを一緒に考えたい」という想いを伝えながら、エンディングノートを渡す。

母 「エンディングノート？なぁにこれ」

父 「あぁ、万が一のことがあった時のために必要な情報を書いておいたり、やり残したことなんかを書いておくやつだろ」

姉 「詳しいね」

父 「ゴルフ仲間の間でそんな話になってな。たしかにな。お母さん、一緒に書いておくか」

母 「お父さんも？」

父 「うん。だって、お母さんが物忘れに悩んでることも俺、わかんなかったし。意外と、伝えてないことってあるのかもなって……。俺は多分ないと思うけどね！」

姉 「わかんないよ～？」

母 「まあ、そうねえ。家族だと逆に、改まって話すの避けちゃったりするのかもね」

姉 「私も、この機会だから言おうかな……。実は、今パートナーがいて」

父 「え！？」

母 「お父さん」

姉 「日本で働いている、外国の人なんだけどね。今度、一緒に向こうで暮らさないかって話になっていて。ちょうど私も海外赴任の話がまとまりそうで。でも、私が日本離れちゃって大丈夫かなって……」

母 「行ってらっしゃいよ」

姉 「え？いいの？」

母 「そりゃ、あなたの人生だし、それに海外で働くの、ずっと前からの夢だったでしょ。」

姉 「覚えててくれたんだ」

母 「もちろん。よかったね。パートナーさんも、あなたが選んだなら素敵な人なんでしょうね。いつでも連れてきていいからね」

姉 「でも、私が遠くに行っちゃって大丈夫？何かあってもすぐには来れなくなるしさ」

母 「大丈夫よ。（体験者）もいるし、ウチにはそれなりに蓄えもあるしね」

父 「そうだっけ？」

母 「お父さん、自分が家にどんくらいお金あるかも知らないの？」

父 「家計のことも、お母さんに任せきりだったからなあ」

姉 「ダメだよ。ひと昔前は、外で働いて稼いでくればいって考えだったかもしれないけど、お父さんだってもうリタイアしたんだし、一緒に家のことができるようにならないと」

父 「面目ない……」

姉 「で、実際、どのくらい貯金あるの……？」

母 「ふふふ……、ちょっと手伝って」

母の指示に従って、みんなでこたつテーブルの天板をずらす。
そこには、「印鑑と通帳」が隠されている。
「一番安心できる場所」とは、家族があつまるテーブルのことだったのだ。



姉 「あ、こんなところに」

母 「大切なものは、『安心できる場所』に隠しておくのが一番だから。見て」

母は、通帳を取り出して父に見せる。

父 「おお、あるな……。本当に？」

母 「『塵も積もれば山となる』。将来を見越して、頑張ってコツコツ貯めてたのよ」

姉 「え、見たい見たい」

母 「まあまあまあ。必要になることがあったら、見てみてください。変わらずここに隠しておくから。もちろんこれは、家族の秘密ね」

こたつテーブルの天板をもとに戻して、座り直す。

父 「いやしかし、まさかお母さんがそんなヘソクリしてたなんて知らなかったな」

姉 「本当に家族でも、案外知らないことって多いんだね」

母 「そうね、家族だからこそ、あとまわしにしちゃうことも多いしね」

姉 「あんたが急に近況報告し始めた時は何かと思ったけど、話せてよかったかも」

母はエンディングノートをパラパラとめくり、

母 「あ、ここ書いておこうかな」

母は、見つけた「やりのこしたこと」の欄に、
「もう一度、家族で旅行したい」と書き込む

母 「もう一回くらい、家族旅行がしたいかな」

父 「そっかあ。最後にみんなで旅行したのっていつだ？広島か」

姉 「そんな前だっけ？」

母 「そう。ウチってアルバムの写真、全然ないんだから。この前整理してて寂しくなっちゃった」

姉 「じゃあ、今写真撮る？せっかく全員揃ってるし。三脚あったよね」

姉は、収納からカメラと三脚を出してくる。

母 「ええ、どうしよう。全然綺麗にしてないのに」

姉 「まあまあ、ありのままってことで。はいそこ並んで」

姉の指示で、カメラの前に並ぶ母と体験者。

父 「あ、ちょっと待った。だったらそうだ」

父は、一度はけて、火のついたバースデーケーキを持ってくる。

父 「ハッピーバースデー、トゥーユー♪ハッピーバースデー、トゥーユー♪ハッピーバースデー、ディア、おかあさん♪ハッピーバースデー、トゥーユー♪」

母は、ろうそくを吹き消す。

父・姉・体験者 「おめでとう~~~~」

姉 「じゃ、撮るよ。ケーキこっち向けて」

セルフタイマーで家族全員の写真を撮る。

姉 「はいオッケー。あとでシェアしとくね」

母 「は~~~~、もうびっくりした。こんなホールのケーキなんて久しぶり。今日は本当にいい誕生日になりました。ありがとうね。満足、満足」

父 「こちらこそ、いつもありがとう」

しばらく、家族と体験者で雑談をする。
その回にあったことや、姉のパートナーの話題について、など。
※撮影した写真を出力して、手紙の中に仕込むのが完了するまで続ける。

母 「あ、そういえば、こっちの友達と会うって行ってなかったっけ？そろそろ行かなきゃなんじゃない？」

体験者は、立ち上がる。

母 「いつでも、帰っておいでね」

父 「うん、別になんでもない日に帰ってきてもいいんだぞ」

姉 「あんたからもたまには連絡ちょうだいよ」

母

「またね、いってらっしゃい」

家族に見送られて、体験者は居間を後にする。

14. エピローグ・子ども部屋～受付

子ども部屋を通りがかると、すでに子ども部屋の中に未来人はいない。
椅子の上に「（体験者の名前）へ」と書かれた封筒が置かれている。
中には、未来が無事変わったことを伝えるための、未来人からの置き手紙と、さきほど居間で撮影した写真が同封されている。



手紙を受け取った体験者は、そのまま会場を後にして、
体験は終了する。

（了）

へ

お元気ですか？ ~~お元気~~ です！

(↑すみません！規定で名前は明かせないんです……！うっかり💦)

改めまして、お久しぶりです！

あつ、でもこの手紙は、私たちが別れた直後の時刻に送られているはずなので、
そちらからしたら、「久しぶり」っていう感じではないのかもしれませんが……。

私は、あなたを居間に送り出したあと、滞在可能時間ギリギリで未来に帰りました。
(でも予定にない時間遡行をしたので、上官にはこっそり怒られました…。トホホ…)

ご家族とのやりとり、うまくいったみたいですね！

未来、変わってますよ！

例によって、規定でガチガチなのですが……、お伝えできることをここに書きます！

まず、お母さんのもの忘れの心配について、家族のみんなが早くに認識できたことで、
元々の歴史より、早いタイミングで医師に相談することができたみたいです！

一人で抱え込んでいる不安な時間も短くしてあげられたのも、よかったですよ。

つぎに、これはシミュレータもあまり予想しきれていなかったことなのですが、

お父さんにとって、あの日（あなたにとっては今日）の会話がかなり響いたようで、

お母さんをさりげなくフォローしたり、環境を工夫したりして、日常生活を無理なく
送ることができるよう考えてくれるようになったんです！

そのおかげもあって、様々なサービスを活用しながらも、お母さんが家事などの役割を続けることができ、お姉さんは仕事をやめることなく、働きながら家族を支える未来に変わります。お姉さんにとって、仕事と介護を両立できるようになったのはいいことですよね、きっと。

改めて…、突然押し入れから出てきた私の、突拍子もないような話を信じてくれて、そのうえ協力もしてくれて、ありがとうございました。

今回のミッションは、私にとって一人で遂行する初めての仕事でした。

私が未熟なせいで、あなたにはつらい思いもさせてしまったかもしれません。

でも、あなたのおかげで、この仕事をしていく上で大切なことを学べた気がします。

大切なのは、相手の気持ちに寄り添うこと。

そして、自分の相手を想う気持ちも、一緒にちゃんと伝えること。

あと、必要以上に悲しがつたり、深刻になりすぎないのも大事かななんて思ったり…！だって誰しも歳は重ねていくものですから。あなたも、あなたの大事な人も、私も。誰だって、生きていれば。

あわわ、私は何を書いているんでしょう…！

未来がちゃんと変わったことを伝えて、安心してもらおうと思ったただけなのに…！

えーと、肝心のあなたの未来がどう変わったかは……、秘密です!!!

規定っていうのもありますが、どんな風になるかわからない方が、面白いですもんね！

それじゃあ、また！ 楽しい未来で会えますように！

